

**13/07/31
No.137**

NewStage60

**名峰白山
南竜ヶ馬場**

白山登山前にも すごいお楽しみの時間があった！

翌日（7月24日）の白山南竜集中登山のアプローチは、ぜひ一緒に歩こうというメンバーが小松空港に集合。降り立ったのは、千葉在住の博道さんと鍋島の二人。迎えてくれたのは穴田さん。3人一緒の出会いは、2007年2月2日（KUWN OB懇親会）以来のようだから、久しぶりの出会いだ。

夕方の懇親会までの時間を活用し、穴田さんの車で、加賀大聖寺の『深田久弥山の文化館』に向かった。が、休館日なので玄関での記念撮影のみ。



全昌寺の見学の後、栗津の穴田家に向かった。そこで見たものは、都会の大多数のサラリーマンが定年後の生活として憧れるが、決して手に入れることができないものであった。



都会のサラリーマンが憧れる生活だ！

母屋とは別棟に、広い土間（板間？）と畳部屋が配されており、実際に使われる薪ストーブも備わっている。家の周りにはたくさんの薪も準備されている。家の前方には、自らが耕す広い畠。その向こうには田園が広がり、そして天候次第では、名峰白山も望めるという。

さらに良いのは、穴田さんの伴侶。小松駅近くの『壱』での我々の懇親会にも参加し、山男達の話にもきさくに乗っていただき、会を盛り上げていただきました。穴田さんの幸せ度は上の笑顔の写真で一目瞭然だね。

残念！山の文化館は休館日



全昌寺 風情もありいいね！

その後のドライブの途中で、吸い込まれたように立ち寄ったのが、全昌寺だ。小生は全く予備知識なしに入ったのだが、見学して分かったことは、由緒あるお寺ということだ。

江戸末期の作で総計 517 体の極彩色の五百羅漢像が安置され、境内には、芭蕉と弟子の曾良の句碑が建てられている。奥の細道の行脚中に一泊し、それぞれが句を詠んだもの。何気なく、穴田さんが句を詠みながら解説してくれる。おっ、俺も句が理解できたぞ

国語の先生・穴田さんの解説で 芭蕉を学ぶ
よもすがら
終夜 秋風聞くや うらの山 曾良
庭掃て 出でばや寺に 散る柳 芭蕉



- ・穴田さんはご不幸のため白山登山急きよ不参加
- ・白山登山の様子：別紙記録参照
- ・写真：博道さん提供

WanderVogel

名 峰 白 山
南 竜 ケ 馬 場

2013 年
7/24~7/26

KUWVOB 土砂降りの雨の大歓迎を受けて 南竜に集結！



俺たちや 雨なんかに負けないよ 楽しめたよ！

関東地方をはじめ各地域で梅雨明け宣言が続々。今年の白山は晴れるぞ…との期待もむなしく、稀にみる土砂降りの雨。

この雨の中、予定の一人も欠けることなく名峰白山・南竜ヶ馬場に集まつたのは、平均年齢 70 歳に近い KUWVOB14 名だ。雨なんかに負けず大いに楽しめたのは、半世紀前に KUWV で、切磋琢磨して鍛えて築いた財産を持つベテラン達だからだ。(それとも、歳をも顧みず、高みを求める単なる無謀高齢登山者かな)

参加者 14 名

(敬称略順不同)

合 津 尚

吉 村 弘 二

山 村 嘉 一

篠 島 益 夫

藤 井 信 晴

伊 豊 欣 二

伊 藤 俊 成

伊 藤 博 道

合 津 尚

清 水 一 勇

白 井 勇

鍋 島 武

山 中 重 夫

山西 久美子

山西 潤 一

初日：7月24日（水）

別当出合～砂防新道を経て南竜ヶ馬場へ

出発から下山まで、個々人の企画と責任で、実施する今回の集中登山。共通項は山村さんが確保した南竜のケビンで、一緒に宿泊することだけ。といつても、偶然か仕組んだかは別として、四つのグループが、別当出合から砂防新道を経て、南竜に登った。



キヌガサソウ

第一グループ 《早出、早着き》 山原則順守派…5名

前夜は、金沢で一杯やりながら結団式。その結団式に参加したうちの5名。合津さん…仕事、地元での野菜作り、ウルトラマラソン、山、まさに老い知らず。吉村さん…若い頃雪の白山にも挑戦し、今なお白山大好きの南竜PWの常連。山村さん…この人がお世話をしてくれるからこそ、毎年南竜に来るという者も多い、南竜リーダ。信晴さん・中山さん

…若い頃から今日まで、常に山を登り続け、百名山も完登したKUWVOBのお手本、真の山男。

山村さんが朝早くマイカーでメンバーをピックアップ。7時前に別当出合に到着。7時半には、土砂降りの雨の中を黙々と歩きはじめていた。歩道は水があふれ、沢登りのようだ。不動滝、甚之助谷、万才谷は濁流とその轟音で、怖いくらいだ。とにかく南竜に着くまで、雨で、びしょぬれ状態。

別途出合 7時40分発 → 南竜ヶ馬場 11時20分着

第二グループ 《ゆっくりペース》 山原則順守派…5名

白井さん…ようやく企業経営の重責から解放されて、再び山に向き始め、南竜に初参加。博道さん…ゴルフ場のウォーキングに加えて、今年から山にも参戦、南竜初参加。俊成さん・清水さん・鍋島も、サラ



リーマン卒業後に山歩きを復活した年金高齢登山家。

偶然にも朝9時頃に別当出合に集結したのが、この9期の5名。とにかく《ゆっくり》と、一定のペースで確実に歩を前に進める。重い荷物は仲間うちで分かち合う。半世紀前から培った同期のチームワーク發揮だ。天はこの仲間達をしっかりと見届けたのか、土砂降りの雨も甚之助小屋を越える辺りからあがり、同時に登るペースも順調に上がってきた。

別途出合 9時30分発 → 南竜ヶ馬場 15時着

余談話 9期千葉5人組

電車で30分圏内の千葉県内に、9期の5名（清水、博道、俊成、鍋島、今回欠席の洋次郎）が年金生活を送っている。

懇親会、ゴルフを中心に付き合っているが、今年から山歩きも始めた。春には名峰筑波山で足腰を鍛え、南竜に備えた。

余談話 近畿支部の重鎮

近畿支部の活躍は独自のホームページでも紹介されている。その支部の創設に関わっているのが、篠島さん、伊豫さん。もちろん今も積極的に参加している重鎮だ。

第三グループ 《スピード》 派…2名

篠島さん…百名山も完登し、幅広い山の活動を続けているベテラン山愛好家。伊豫さん…登山道で会う人毎に激励の声や団扇で涼しい風を送り喜ばれ、同時に同僚たちを引っぱる本格的ワンダラー。

近畿から車に同乗して駆けつけた。最近はやりのトレイルランには及ばないものの三時間位で別当出合・南竜を平気で歩いてしまう2人。二人の馬力は雨をも蹴散らしてしまうらしい。遅い出発が功を奏したのか、雨には降られなかったとのこと。

別当出合 → 南竜ヶ馬場 15時過ぎ

第二日目:7月25日(木)

二日目も残念ながら雨模様。それぞのワンデリング計画もむなしく中止。白井さんと山中さんが下山し、山西夫妻が雨の中、南竜に合流。



25日に合流した山西夫妻

25日に下山した山中さん 白井さん



タマガワホトトギス



第四グループ 《自立・夫婦共生》派…2名

山西夫妻…それぞれが高いレベルの仕事・責任を現役として果たし、同時に二人とも山登りをも実践されている。ワンゲルのお手本夫婦。

雨の中の登山であり、甚之助では雷も鳴っていたという。奥様は休憩(仮眠?)中で、雷を聞いていない模様。立派な旦那さんなので安心だね。

雨で沈殿 高齢者用カフェ『南竜』でダベリング!

南竜に沈殿したメンバーは、ワンデリングもやらず、ごろごろ。ケビンは昨日同様、高齢者用カフェ『南竜』という感じで、終日ダベリングだ。カフェオーナー合津、支配人山村、シェフ伊豫、その他はカフェの常連客…という役割設定が自然と出来上がった感じだ。伊豫シェフの最高のお

もてなし精神には驚きですね。自分で持参した火器、コップフェル、食材で、我ら常連客を楽しませていただきました。合津オーナーが自分の菜園で育てたキューリもおいしいね。

吉村さんの語る『高架橋建設と地主交渉』の実態も面白く、退屈しませんね。



篠島先輩はこのカフェを一時間程度抜けだし、ワンデリング。花写真撮りだ。

ところで、9期生は、何をしたの。『はい、先輩のおもてなしに遠慮なく甘えていました。水汲みとごみ整理くらいかな。美味しいおつまみに、うまいお酒。良いカフェだ。毎日通いたくなるね』



宿泊はケビンで、夕食・朝食は南竜山荘で楽しむ。行儀よく乾杯!

自然解説員さんは 何かご縁のある花ガール

二日目の夕方、みんなで南竜ヶ馬場の自然解説員さんの案内による自然観察に出かけた。我ら自身の山の経験からいえば、解説する立場でも通用しそうでもあるが、数名を除いては、花の知識レベルからいってその資格はない。知識と経験豊富な解説員の説明をはじめに聞いて、『うん、うん』とうなずいた次第。

驚いたことは、解説員（花ガール）2名とのご縁。お一人は、KUWVOB のあの奥名さんの奥様です。もうお一人は、山村さんのご近所さんの根上さん。

ところで、皆さん 『ウズラバハクサンチドリ』はどんな花か覚えてますか。次の白山登山までは、覚えておいてね、またその漢字名も覚えてね。

山西久美子先生の健康講座 at 南竜カフェ

一週間に一度の山登り 健康問題のすべて解決！

山西さんは定年退職も近いとのこと。退職後の山登りには相當に期待を抱いていらっしゃる。《一週間に一度山登り》をすれば、世の方々が悩んでいる健康問題をすべて解決する『究極の有酸素運動』だ。特に次の内臓脂肪に関連する病は吹っ飛ぶとのこと。

①高脂血しよう ②高血圧 ③耐糖能障害

筆者追記…久保田競（京大名誉教授）曰『週1回3時間の山登りを3ヶ月続けると前頭前野の容量が増し、賢くなる。学校の成績向上も期待できる』



ミヤマキンポウゲ

特別寄稿 雨と濃霧に感謝！ 9期 伊藤 俊成

ものは考え方。雨と濃霧でしか得られなかつた喜びの事実です。

1. バテずに済んだこと

夏の暑さを感じさせない登り、濃霧による御来光見物の中止と、口ほどではない我が身を晒さずに済みました。

2. 投資のいくばくかの回収ができたこと

昨年新調したレインウェアの利用機会が初めて訪れ、大いに性能を発揮。未使用のままお蔵入りという悲劇を止めてくれました。

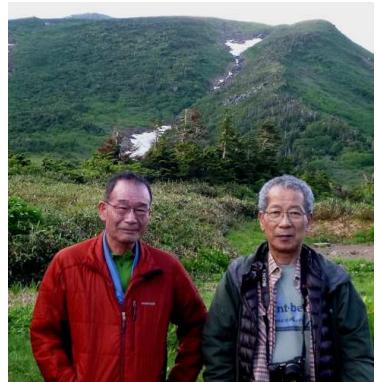
3. 「沈殿」という死語が蘇ったこと

あつという間に40数年前にタイムスリップ。歌声は響かなかつたけれど、先輩方の変わらぬ会話や一瞬の晴れ間から見た満天の星空も懐かしかつた。

楽しい3日間ありがとうございました。



ウズラバハクサンチドリ



余談話

◇奥名解説員「この花は先程説明した花ですが、……」俺、花の名、覚えていないよ。

◇山西先生の講義を聞きながら、カナと自分流の記号でメモをする。漢字が思い浮かばぬ小生を見かねて、講師が漢字に書き換えてくれる。

白山に登れる体力はあるが、頭が衰えたな。（君は昔からそうだよ…の声も）（皆さん、山西先生の講座を信じて、山歩きを続けましょう）



シモツケソウ

第三日目：7月26日(金)

ご来光も見れず ゆっくり下山へ

昨晩段階の計画では、①展望コースで御来光を見る、②展望コースから御前峰を目指す…の二つのワンデリングコースが設定された。寝る前は、空は満点の星。夜中には、窓から月明かりも差し込んでいた。明日のワンデリングを楽しみにして、寝込んだ。

午前3時15分起床。無残にも、南竜ヶ馬場は深い霧で覆われている。御来光は全く期待できず、ワンデリング計画は中止。本日は、みんな一緒に、砂防新道を下ることになった。山西夫妻はお二人だけで、別行動・下山へ。

別当出合に無事下山 天気：晴



南竜道と砂防新道の合流点からの別山

膝を痛めぬように、小さなステップで、慣れている砂防新道とはいえ、慎重に下りる。

それにしても、皮肉な天気だ。下るにつれて、晴れてくる。別当出合に着くころは、真夏の陽射に戻っていた。

南竜ヶ馬場 7時発 → 別当出合 11時着



『5年後に南竜ヶ馬場に集まる』を全員で誓う！

五年前のKUWVOB総会後の二次会で、山村さんから酔っ払い相手に、南竜集中PWが提案された。それから5年間、70歳前後の高齢者による南竜集中登山が、無事に、確実に、毎年実行されてきた。

山村さん 新たな提案

今回のPW二日目の夕食後、山村さんから新たな提案がされた。

『5年間続いたPWをひと区切りにしたい。次は、5年後に南竜ヶ馬場に集まろう。5年後にまた私が呼びかけます』

この5年間の山村さんのお世話に感謝し、5年後の山村さんの呼びかけ・お世話に応えて、南竜に来るぞ…と、全員が誓った。

8期 山村 嘉一

創部50周年の二次会の快気炎から実現した『KUWV O B 南竜集中PW』も、今回で5回を迎えることができました。若かりし頃のワングル活動の想い出を手繕り寄せ、青春時代のあの“ワングル”に浸れるひと時を持てないものかと、白山は南竜に集まる事に話がまとまった訳です。ケビンの予約や参加者を募ったりして、ささやかなお世話をしてきた山村ですが、あとふた月で71という歳もあります。今回を一区切りとして、次は5年後に南竜集中PWを呼びかけます。

これまでやりくりして多数ご参加頂いた方々、参加はできずとも色々と支援して頂いた方々に、厚く御礼申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。来年は伊藤俊成さんがお世話して下さるということで、大変心強く思っております。これからも皆さんがあつまでも元気でこのPWが続くことを祈っております。



ガクアジサイ

来年も集まりたい！

『5年後の南竜』が決まった後に、5年も待てないという声も強く出た。その声に応えて、9期千葉組を代表して、伊藤俊成さんが、5年後の南竜への繋ぎとして、来年の南竜PWをお世話することに決定。



コバイケソウ

写真：山村、篠島、鍋島
記録：鍋島